

定期報告

2011年5月6日

天候;晴れ

温度;20°C

湿度;50%

風;弱めの南東の風

放射線量;0.11 μ Sv/h: 持参線量計 palmRAD Dosimeter Model 1621M (BNC)

食事 朝;パン、ミネストローネ

昼;レトルトの親子丼、中華丼

夜;炊き込みご飯

氏名;原田生知

体調;良好

行動日誌

6時20分起床

7時00分朝食 本日はパンと大城チーム提供のミネストローネスープに町田チームが野菜を追加した野菜たっぷりスープと、工藤課長によるランチョンミートと大和煮を皆で頂く。

8時00分 恒例の朝ミーティング。本日のスケジュールを確認。本日は西村薬剤師と小林薬剤師(長野)に一日診療所業務をお願いすることとし、私は工藤課長とともに午前 山田町、午後大槌町内の医療機関の視察を行うこととした。

8時45分 診療所朝カンファレンス。本日は特記連絡なし。

9時00分 診療開始。本日は平日で大槌高校授業あり。朝一で3名ほど受診者あり。

9時15分 大槌高校出発。

9時30分 吉里吉里地区到着。吉里吉里地区は海岸部平地が狭く、傾斜地に住宅が広がっており、津波による一般家庭の被災は比較的少ない印象。それでも、海岸部の商業施設は壊滅状態である。吉里吉里地区では本日より大槌おおのクリニックが老人ホームらふたあヒルズ内で診療開始。処方せん受付のハーブ薬局も同一フロアで同時開局とのことで現地を視察。慣れない土地と被災地であるため道路状況が地図とは異なり、建物に辿り着くまでに時間を要する。途中何名かの地元の方に道を教えてもらいようやく到着。皆、被災して大変な状況にも関わらず快く道案内をしてくれた。

大槌おおのクリニックは本年6月に開業予定であったところに今回の津波被災とのこと。ハーブ薬局に挨拶。ハーブ薬局では総務部長の小田島氏が対応してくれ、本日より保険診療体制を開始との情報を得た。

薬局には分包機もあり、整備された調剤室で平常業務を行っていた。勤務職員数は5名。頂いた名刺よりハーブ薬局は盛岡に本部を置く薬局チェーンらしい。

10時30分 山田町到着。事前に工藤課長より教えてもらっていた通り、被災地の悲惨さは相変わらずであるががれきの撤去がかなり進んでいた。山田町では山田病院、後藤医院が通常診療しており、保険薬局機能も回復していた。

午前の視察は以上。本日は快晴で被災した街並みと風光明媚な三陸海岸の景色が何とも言えない不思議な感慨をもたらす。ほこりも想像していたほどひどい状況ではない。マスクなしで過ごすことが出来た。

11時45分 大槌高校到着。午前診療はまだ続いていたためサポートに入る。その中、避難所内で頻脈で動けなくなった急患ありとのこと。担架の手配がつかず長野チームナース(男性)、西村薬剤師とともに診察室への搬送を手伝う。診察の結果、救急車で県立釜石病院へ搬送することとなり、同行する長野チーム岸医師の帰りの足として工藤課長の派遣を大城医師より依頼を受ける。

本日の昼は急患搬送もあり、各自交代で工藤課長が準備してくれた缶詰料理、レトルト食品とご飯を頂く。

1時00分 午後診療開始。工藤課長釜石行きのため当初の予定を変更し、調剤業務に就く。薬剤師3名体制。午後一から大槌高校バスケット部員が3名ほど痛みの訴えで受診。最初の男子高校生は被災時にガードレールと自転車に足を挟まれ、痛みをこらえて練習していたが、痛みを耐えられなく受診したとのこと。震災による負傷は1カ月を経過してもなお起きている。

2時20分 工藤課長帰着。

2時40分 薬局業務も落ち着いてきたので大槌町内視察に出発する。

2時50分 道又内科小児科医院到着。道又医院も本日より一般の一戸建て家屋内で薬局と同居形式で保険診療を開始。病院職員に挨拶したところ快く医院内に案内して頂き、院長、薬局長に挨拶できた。薬局内には分包機あり。薬品数は少なめであったが通常業務は問題なさそうである。

3時00分 県立大槌病院上町診療所を視察。辛うじて火災被害を免れた神社境内の公民館で診察を行っている。調剤はつくし薬局が同居し行っている。この診療所では災害救助法により診療、調剤が行われているとのこと。

3時30分 藤井小児科内科クリニック到着。プレハブの診療所。同一敷地内にプレハブで菊谷薬局。ともに本日より保険診療開始。院長、薬局長に挨拶。薬局には分包機あり、通常調剤問題なし。保険診療ではあるが被災者免除対象者が多いとのこと。

4時00分 大槌高校到着。本日の釜石カンファレンスには長野チーム出席のため大城チームは当直担当。原田、西村は調剤待機。

5時15分 夕食。工藤課長による圧力なべ製炊き込みご飯と大城チームによるサバ缶せんべい汁風なべを美味しく頂く。しばし、大城チームと歓談。

8時40分 急患あり。じんましん患者。原田、西村同行するも処方なし。注射薬治療のみ。本日も大城チーム当直。今晚の対応は西村薬剤師にお願いする。ちなみに昨夜はゼロ件。おやすみなさい。

氏名;西村宜朗

体調;良好

行動日誌

6時10分起床。

7時より朝食をとり、近隣散策と朝のミーティング。本日の行動計画を確認しながら近隣の散策。復興は日に日に進んでいるようで、昨日まで瓦礫だった箇所が更地になっている。自衛隊の努力はすごい。しかし、範囲が広すぎることもあり、まだまだ先が見えない感じは残る。

8時45分より診療所でのミーティングと調剤業務。今日は特別な用事がないため1日の流れを考える良い機会となった。

11時30分頃までは通常業務。

12時近くなり診療所の隣の体育館で立ち上がれない具合の悪い人がいるとの報告を受ける。緊急で担架が見つからなかったため毛布でくるみ診療所へ搬送。更に悪化の可能性も考えられるため救急車で釜石の病院へ移送することになる。支援隊での治療の限界を感じる。担架は学校に備え付けのものが以後見つかるのだが、心電図のロールペーパーが足りないアクシデントが発生。十分な設備や備品の足りないことに対する不安も感じる。しかし、今回の不足に関しては長野県医師会の対応により解決の兆しは見える。

昼ご飯を交代で食べ午後の診察へ。昼食時に部屋に戻ると食事が出来ていて、すぐに交代できたのは総務として食事の用意をおこなった工藤課長の役割が大きい。

午後は西村と長野県薬剤師(小林)の2名体制。特につくし薬局より届いた薬の監査、受け渡しとなる。実際長期の慢性疾患の処方も多いため午後のほうが薬剤師は忙しい場合が多い。

対策会議については、今日は長野県薬剤師へとお任せし、当直医師の救急処方での調剤を担当する。

17時30分頃に医師や看護師と談笑しながら夕食を食べる。来たばかりの大城医師は個々での食事の方針だったが、一緒に食事をするようになってくる。連携を高めるには非常に良い機会だ。その後も救急での処方に向けて待機となる。

氏名;工藤源造

体調;良好

行動 日誌

6:00 起床

7:00 ミーティング

8:45 診療所ミーティング

9:00 診療開始

9:30 山田町内調査

吉里吉里診療所、道の駅やまだ、山田町南小学校、山田町仮診療所、
給油

11:30 一時帰着

昼食

13:00 救急搬送に同行した医師を県立釜石病院に迎えに行く

14:30 原田薬剤師同行で大槌町内調査

大槌町仮診療所、藤井小児科、道又小児科

16:00 帰着

16:30 診療終了